

千葉県立小金高等学校

1 学校の紹介・自校の図書館の現状

小金高等学校は、全日制総合学科 18 学級の学校である。本に関心がある生徒は多く、保護者の関心も高い。総合学科独自の科目として、「産業社会と人間」や「課題研究」があり、調べ学習で図書館を利用する生徒は多い。また、上級学校に進学する生徒も多く、自習室としての利用も多い。

2 学校図書館活動の取組

(1) 校内組織と主な役割

校内分掌の中で図書部として図書部長、司書教諭、司書を含め 5 名で図書館を運営している。

(2) 生徒や教員に対する支援

ア 新入生オリエンテーションは図書委員会の生徒によって行われている。貸出等についての説明と合わせて、生徒及び図書部長、司書教諭、司書も加わり交替でお勧め本の紹介等を行い図書館の楽しさを伝える。また、職員向けの利用案内も作成し授業等の利用を促している。毎年、初任者研修会も行っている。

備品の更新や蔵書点検等も計画的に進めている。

イ 図書委員会活動について（読書推進活動）

年間 5 回、係の生徒による広報誌「BOOK Walker」の発行、図書館報も発行している。また、掲示係によるお勧め本の POP 作成を定期的に掲示している。

○ 施設見学

夏季休業中に毎年、施設見学等を実施している。今年度は明治大学図書館見学を実施した。司書教諭が中心となり企画し実施した。



(施設見学)

○ 合同読書会

どくしょ甲子園で注目された読書会。生徒に刺激を与えるため、他校との交流も含めて参加している。会場校の図書委員が選書した数冊の課題本の中から 1 冊を選び、当日初対面の他校生徒と読書会を行う。生徒だけで話し合いを進める中で、作品に対しての自分の持ったイメージと他者との意見の違いに気付き、表面的な理解に留まらず多くの新しい発見をし、楽しさを共有して読書を楽しみます。

「読書ボード」の利用、「キャッチコピー」の決定(各グループ)、POP 製作を同時に行い、短い時間の中で、さらに作品への深いところを味わいます。自分では手に取ることのないような作品を読み、他者の意見を聞くことが生徒にとっては、と

ても良い経験となっている。



(読書会)

○ 文化活動

文化祭では、弦楽部とコラボで朗読発表を行っている。音楽との調和を考えながら、物語がどうしたらうまく伝わるのか、声の大きさや、感情表現などを工夫して発表する。生演奏をバックでの朗読は、貴重な体験となっている。弦楽部としても、いつもと違った方法で音楽の楽しさを伝え、作品の場面ごとに聴いている人がお話の中に入り込むことができるような演奏ができるようにしている。



(朗読発表)

○ 校内ビブリオバトル

前期最終日に図書委員会主催で校内ビブリオバトルを開催している。年々プレゼンに対する意識が高まり、図書部職員に事前に聞いて欲しいとの要望が増えている。どうしたら「読みたい」と思ってもらえるかを追求しているようです。



(校内ビブリオバトル)

(3) 学習等に関する支援

○ 教科指導に関すること

- ・ 図書館を利用した授業に対して、事前に担当者と打合せをし、資料の準備をする。
- ・ 教諭個人の教材研究への支援も積極的に行っている。
- ・ ホワイトボードや映像を使う場合の準備もできるようにしている。
- ・ 課題研究の資料については、グループ研究や個人研究もあるため、200通り以上の研究テーマがあるが、細かい対応を心掛けている。

授業実践報告 I

数学科（数学Ⅱ）学習指導案

千葉県立小金高等学校

- 1 日時・場所 令和元年10月30日（水） 第4限 図書室
- 2 学 級 第2年次D組（41名）
- 3 学 級 観 基礎学力が定着しており，発展的な内容に関心を持って取り組むことができる。また，明るい人柄の生徒が多く，授業にも積極的に参加している。
- 4 教 材 教科書『数学Ⅱ Advanced』（東京書籍） 副教材『Hi-PRIME 数Ⅱ+B』（東京書籍）
- 5 単 元 名 式と証明・高次方程式
- 6 単 元 目 標 整式の除法，等式や不等式を証明することの意味や方法について学ぶことにより，数学的な考え方や論理的思考力を養い，式と証明についての理解を深める。
- 7 本時の目標
 - (1) 学校図書館における多数の文献資料にあたることにより，多様なものの見方を身につける。
 - (2) 高次方程式に関する知識を得る。
 - (3) 数学者の人生を知り，自分に照らし合わせて考えることによって，人生を豊かにする方法を考える。

8 本時の学習展開

段 階 (配当時間)	学習内容・学習活動	学習活動の支援・指導の留意点
導 入 (5分)	代表的な数学者について確認する。	以前回収したレポートの内容を，全体が共有できるように話す。
展 開 (35分)	指定した本を探すと同時に，図書室の様子を確認する ガロアの人生について知る。 タクシー数について考える。	概要を素早く話す。 席の近い者で班を作り，協力して作業をするように指示する。
まとめ (5分)	授業の感想を書く。	感想が記入された用紙を回収する。



授業実践報告Ⅱ

国語科（国語総合）学習指導案

千葉県立小金高等学校

- 1 日時・場所 令和元年10月30日（水）3限目 図書室
 2 学 級 第1年次E組（40名）
 3 単 元 名 「土佐日記」概略を自分で調べることによって、作品理解を深めよう。
 4 単 元 目 標 ・土佐から京までの五十五日間の様子を、端的に読み取る。
 ・作者紀貫之が、道中どのような気持ちを抱いていたのか考える。
 5 使用資料等 ①土佐日記の行程を示した地図
 ②『増補版 常用国語便覧』 浜島書店
 ③土佐日記の全文と現代語訳が掲載されている図書
 （紀貫之著 西山秀人編（2007）『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 土佐日記（全）』角川ソフィア文庫 等）

6 本時の展開

段 階 (配当時間)	学習内容・学習活動	指導上の留意点・評価の観点
導 入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> 『土佐日記』に関する基本的な事項を全員で確認する。 調べ学習のやり方を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 四人一班で着席するように指示する。 どの部分をどの資料を使って調べるのか、実物を見せながら説明する。
展 開 (27分)	<ul style="list-style-type: none"> 班で二人ずつに分かれて、役割分担をする。 地図・国語便覧・『土佐日記』全文が掲載されている図書等を適宜使って、担当箇所を調べる（プリント課題①）。 班の中でそれぞれ調べたものを発表し合い、合体させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間巡視をして作業が進んでいるかを確認する。 調べ方が分からない生徒に対して、助言をする。 終わった班は、プリントの課題③に取り組むように指示する。
まとめ (8分)	<ul style="list-style-type: none"> 土佐から京に帰る五十五日間で、紀貫之はどのような気持ちを抱いていたのか考える（プリント課題②）。 どのような考えを持ったのか、クラスメイトと共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べた内容を材料に考えるように指示する。



授業実践報告Ⅲ

地歴公民科（地理A）

千葉県立小金高等学校

- 1 日時・場所 令和元年10月30日（水） 第4限 図書室
- 2 学 級 第2年次4クラス（130名）
- 3 学 級 観 基礎学力が定着しており、発展的な内容に関心を持って取り組むことができる。また、明るい人柄の生徒が多く、授業にも積極的に参加している。
- 4 教 材 教科書『高等学校新地理A』（帝国書院）『詳解現代地図』（二宮書店）
- 5 概 要

選択生徒は、一つの国を担当国として年間を通して調査研究を行う。調査資料確保のため、学校司書から県立中央図書館、県立西部図書館、県立東部図書館、他校に協力を依頼し、多数の資料提供を受けて実施している。

前期「担当国紹介」

- 第1回 担当国決定 図書館内の資料を参考に各自担当国を選ぶ、重なったら抽選
- 第2回 担当国概要調査 図書館内の資料を参考に担当国の概要を調査する
- 第3回 担当国クイズ作成 担当国のクイズを作成し、その一部を定期テストで出題する
- 第4回 プレゼン資料作成 担当国のプレゼンテーション当日に配布する資料を作成する
- 第5回 プレゼンテーション 世界全図、ホワイトボードを使用し1名ずつプレゼンする

後期「ツアー作成」

- 第1回 ツアーテーマ決定 担当国ツアーの企画書を作成する。必ずテーマを持たせる
- 第2回 旅程表作成 ツアーの旅程表を作成する。日程、金額等は自由とする
- 第3回 チラシ作成 ツアーのチラシを作成、プレゼン時に縮小印刷した物を配布
- 第4回 プレゼンテーション プレゼンテーション後に質疑応答し、相互評価をする

上記の授業について、学校司書には選書、講評等、全面協力してもらおう。

また、この授業とは別に夏休みの宿題として修学旅行の目的地である沖縄に関する本を読ませ、夏休み明けの授業でグループごとに図書館内でビブリオバトルを実施している。



(4) 公共図書館との連携

県立図書館との連携はとても大切で、授業や教材研究用としての資料を多く活用している。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・本校では授業や自習室として利用する生徒も多く図書部の役割も重要である。また、毎年、地理(司書教諭)、世界史、課題研究等の授業が日常的に行われている。
- ・図書委員の活動は、図書館の管理だけではなく、朗読などの文化活動、校外の読書会への参加や施設見学など、本を核にした活動を通し、生徒の創造性、主体性を育ませている。
- ・入学時のガイダンスから読書を通した学びの深さ、おもしろさを生徒や教員から、発信し、学校の「智のステーション」としてのPRをしている。

(2) 課題

- ・本校は、書庫が無く、手狭であるため、適切な廃棄が求められ、保存すべき図書の管理を書庫の設営を含め、考えていかなければならない。
- ・時代の流れの中で、電子書籍をどう取り入れていくかを、学校として他分掌と連携を取りながら、早急に考えていかなければならない。